

令和 5 年 6 月 3 日現在

機関番号：34418

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00807

研究課題名(和文) Research on the concept of intercultural competence in literary works

研究課題名(英文) Research on the concept of intercultural competence in literary works

研究代表者

LETELIER Maria (Letelier, Maria Paula)

関西外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：80761767

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はスペイン語学習における異文化コミュニケーション能力の開発と文学との関係性を軸にしたものであるByram(2009)異文化コミュニケーション能力の開発理論においてある言語で対話をするには、まずその言語を話す人々の文化やコードを知る必要があると説明している。適切な対話を促すための文学教材が求められてきた。本研究には2つの目的がある。1つ目は、言語能力と異文化コミュニケーション能力の統合(Byram, 2009)を促す外国語教育および学習方法を検討すること。2つ目は、外国語としてのスペイン語教育において、言語能力と異文化コミュニケーション理解能力の学習とを統合する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、外国語教育において、効果的なコミュニケーションのために求められる文化、多様性、異文化コミュニケーション能力の知識とスキルを概念化するために必要な枠組みを作成することを目指している。研究の成果として、外国語学習者は文学教材を通して異文化間理解のための問いをたて内省することができた。文学とコミュニケーションを統合したことで、新たなスペイン語話者となった学習者は、異文化間コミュニケーションの多様な場面で誤解を避けることができるようになった。

研究成果の概要(英文)：This project has been developed around literature and the development of cultural skills in learning Spanish. Based on the theory of the development of cultural competencies outlined by Byram (2009).

研究分野：Education

キーワード：Literature Intercultural Communication skills ELE

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の初期段階では、外国語学習者と目標言語を母語とする話者の間のコミュニケーションを適切にし、文化的な誤解を防ぐためのツールを学習者に提供することを目指した。すでに先行研究の成果としての複数の教材が存在したが十分ではなかった。Byram (2009)が指摘する通り、多くの指導要綱等で異文化学習の重要性に言及しているとはいえ、一般的には、外国語教育の場においては、語彙や文法についての指導は十分に行われているが異文化理解に関する能力開発にはまだ十分な注意が払われていない。目標言語(ここではスペイン語)話者の文化や生活様式を扱う文学を題材とした教材開発を目指した。

### 2. 研究の目的

本研究には2つの目的がある。1つ目は、言語能力と異文化コミュニケーション能力の統合(Byram, 2009)を促す外国語教育および学習方法を検討すること。2つ目は、ELEにおいて、言語能力と異文化コミュニケーション能力の学習とを統合する、文学を題材とした教材開発を目指すものである。なお、本研究は、外国語教育におけるコミュニカティブ・アプローチの分野に位置する。その中心概念は、外国語教育および学習における文化、文化的多様性、異文化コミュニケーション能力である。

### 3. 研究の方法

本研究では、異文化間言語学習モデル(Byram and Fleming 2009)を用い、異文化コミュニケーション能力の育成を目的とする教材開発を行った。Byram (2009)は、知識、能力、態度を体系化し、教育と評価モデルを開発した。このモデルでは、学習者は、相手の文化の特徴を調査する能力、知識を獲得する能力、さらに、文化的多様性に寛容な態度を持つことが求められる。ここでは、異文化コミュニケーション能力とは、実際のコミュニケーション場面において適切な態度で臨み、多様な文化の側面を知ろうとする意欲的な態度と定義される。

このような異文化コミュニケーション能力育成のためには、まずは、自らの文化を理解する活動をすすめるべきだとされ、ByramとFleming (2009, p. 14)は、そのための3つのプロセスを考案した。

1. 言語学習と文化学習を統合し、コミュニケーションと相互対話を促す。
2. 他者の比較を通して、学習者が置かれている社会文化について再考し、批判的に見つめ直すことを促す。
3. 学習者が日頃接している言語とは異なる文化や社会と出会いコミュニケーションをとることを促す。

本研究における2つ目の重要な点は、異文化コミュニケーション能力を文学と融合させたことだ。この点に関しては、Bredella (2000)やKramsch (2000)など、さまざまな先行研究がある。先行研究者は、外国語教育の場での文学的なテキスト使用が、学習者が世界を見る複合的な視点を獲得することに寄与すると述べている。

Bredella (2000)は、相手の立場に立つこと、あるいは自分とは異なる世界を想像することは、異文化間理解に不可欠であり、そのためには、自らのおかれた現実をまず認識すること、さらに、他者の価値観、行動様式や必要性を認めることが重要であると述べる。このようなプロセスにより、学習者は、異文化理解の土台となる批判的な視点を獲得していく。

文学を中心に据えた教材が外国語教育・学習において異文化コミュニケーション能力のプロセスに貢献する理由は、言語的、文化的、感情的な要素等多岐に渡る。言語的な観点からは、語彙、構文、散文、意味論、語用論のような言語のさまざまな側面がある。文学は、発信者としての作者が、コードを使用しメッセージを受信者に伝達するコミュニケーション行為である。このような理論的基盤に立脚し、言語学習と文化学習を統合するための文学を用いた複数の教材を開発した。学習者による、様々なジャンルの文学様式(歌、詩、小説、短編小説等)を用いた活動により、本研究の目指す成果を得ることができた

### 4. 研究成果

本研究の2018年から2023年の研究期間は大きく2つに分けられる。第1期間においては、異文化コミュニケーション能力開発に寄与する教材開発のための理論的基盤をまとめた。第2期間では、ヨーロッパ言語共通参照枠によるA2、B1レベルを持つ外国語としてのスペイン語(ELE)学習者が実践的学習において使用する教材開発を試みた。

第1期間の成果として、数年にわたる議論を経て、言語教育のプロセスにおいて文化的要素を取り入れることの重要性和影響力が広く認められるようになったと言える。グローバル化がますます進行する中、効果的なコミュニケーションを図るためには、目標言語話者が持つ世界に近づくための異文化理解能力が必要である。異文化コミュニケーション能力の獲得のためには、言語知識の獲得に加えて、文脈や話者をとりまく社会環境に合わせた表現を用いる必要性があることを意識化すること、相手の世界に関心を寄せ理解するための活動を教育実践の場で展開することが重要である。

コミュニケーション能力は、学習者が目標言語の構造に注意を払い目標言語での効果的な対話を可能にする。さらに、次段階においては、ネイティブスピーカーとコミュニケーションを図るために必要な異文化コミュニケーション能力に発展する。Miquel (1999)は、異文化間コミュニケーション能力とは、あるコミュニティの成員が持つ習慣、物、知識、信念に関する知識を、談話を通して組織化するための手続き的知識であるとし、文化の衝突を克服するために不可欠なものであると定義する。当然ながら、異文化間のコミュニケーションを阻害する要因は多々存在する。ゆえに、学習者が自国の文化と目標言語の文化の違いに関心を寄せ、双方を尊重しながら学習することが必要とされる。

第2期間では、文学を中心に据えた言語学習教材開発に力点を置いた。開発した教材は、スペイン語学科のヨーロッパ言語共通参照枠によるA2およびB1レベルの学生を対象とした教育実践に用いた。対象となった学生(2019年、10名。2020年、12名。2021年、9名、2022年、12名)は、イスマノアメリカ諸国と日本の文化との対比の多様な側面について知識を獲得し、熟考を重ね、批判的に問をたてることを促す各種のテキストを読む活動を行った。この教育実践のすべてのプロセスにおいて、学習者の意見を尊重するとともに、批判的視点をもつことを促すことに注意を払った。

活動後に行った調査票の結果からは、「効果的なコミュニケーションに役立つ文化的側面を知ることができた」という多くの意見が読み取れた。結果分析からは、日常生活、家族、休日等、学習者にとって理解のより容易な題材がある一方、話者交代、親子関係など、理解が難しい題材があることがわかった。このような研究結果から、言語教育のプロセスにおいて、多様な角度から文化を捉え直し、自らの視点を確立し批判的内省的に世界を見る機会を、学習者に与えることは重要だと結論づけられるだろう。さらにその経験が目標言語の知識だけでなく、自己認識を促し外国語学習をより有意義なものにするといえる。

#### 参考文献

- Bredella, L. (2000). Literary texts. In Byram, M. (Ed.) *Routledge encyclopedia of language teaching and learning*. pp. 431-437. London: Routledge.
- Byram M. y Michael F. (2009). *Perspectivas interculturales en el aprendizaje de idiomas*. Madrid: Edinumen.
- Kramsch, C., & Kramsch, O. (2000). The Avatars of Literature in Language Study. *The Modern Language Journal*, 84(4), pp. 553-573.
- Miquel, L. (1999). El Choque intercultural: reflexiones y recursos para el trabajo en el aula. *Carabela*, número 45. pp. 27-46. Madrid: SGEL. Recuperado en: [https://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca\\_ele/carabela/pdf/45/45](https://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca_ele/carabela/pdf/45/45)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Letelier Paula	4. 巻 112
2. 論文標題 Desarrollo de las competencias interculturales a través de la literatura	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Inquiry and research	6. 最初と最後の頁 359-371
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18956/00007946	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Letelier Paula	4. 巻 XXIX
2. 論文標題 La competencia intercultural en la clase de ELE	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Perfiles factores y contextos en la enseñanza y el aprendizaje de ELE	6. 最初と最後の頁 525-536
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Letelier Paula	4. 巻 29
2. 論文標題 La incorporación de la literatura en la sala de clase	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Lexico y cultura en LE/L2 corpus y diccionarios	6. 最初と最後の頁 361-370
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Letelier Paula	4. 巻 63
2. 論文標題 Maria Carolina Geel: pasión y cárcel en la literatura chilena	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hispanica	6. 最初と最後の頁 139-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Paula Letelier
2. 発表標題 El desarrollo de las competencias interculturales a traves de microrrelatos.
3. 学会等名 31 Congreso Internacional de ASELE. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Paula Letelier
2. 発表標題 Tareas online para desarrollar las competencias interculturales.
3. 学会等名 Jornada de Formacion de Profesores del Instituto Cervantes. (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Paula Letelier y Pilar Valverde
2. 発表標題 Traduccion automatica y ELE.
3. 学会等名 Taller de Didactica de Kansai. (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Letelier Paula, Diaz Adriana, Cecilia Silva.
2. 発表標題 Encuentro online de aprendizaje para profesores.
3. 学会等名 Competencias interculturales en la clase de ELE: Los nuevos desafios. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Letelier Paula
2. 発表標題 Desarrollo de las competencias interculturales a través de textos literarios
3. 学会等名 XXX Congreso Internacional de ASELE (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Paula Letelier
2. 発表標題 La interculturalidad en la clase de ELE
3. 学会等名 XXIX Congreso Internacional de ASELE (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Paula Letelier
2. 発表標題 Pasion y carcel en la literatura chilena
3. 学会等名 LXIV Congreso de la asociacion japonesa de Hispanistas.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Paula Letelier
2. 発表標題 La interculturalidad en la clase de ELE
3. 学会等名 I Jornada de Profesores de Singapur (招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------